

は身近にそれぞれの環境に接することができた。

しかし現代では、人間活動によって自然環境は破壊され、里山は不要と成って放置され、農耕地は酷使によって劣化し、都市は自然環境と農業環境の衰退を意に介さない人々であふれかえっている。

土壌劣化は過去最悪

古代において人間の営力がそれほど大きくなかった時代にも多くの農耕文明が衰退してきた。現代では過去にはなかったテクノロジーによって自然環境と農業環境が改変されている。

このことがプラスの影響ばかりでなく、大きなマイナスの影響も及ぼしていることは明らかである。この連載でしばしば触れている土についても現代の土壌劣化は、過去の文明で起こったよりもさらに速く進行している。

私たちは自然環境や農業環境に接する機会を増やして現状を直視し、また現代生活のあり方を見つめ直し、子供たちに不幸な未来をもたらさないように意識的に行動する必要がある。

子供たちには、土に親しむ機会を増やし、農業生産現場を実際に訪れ、土の重要性を認識し、それが守らなければ失われてしまうものであることを学んでもらう必要がある。

態系のなかの一構成メンバーとして、自然の中から衣食住の全てを分けてもらい生活してきた。自然と人間の関わりは厳しい側面もあり、人間は生息に適した限られた地域で生活し、人口を容易には増やすことができなかった。

しかし作物の栽培を始めたことにより、より容易に食料を得られるようになった。人間は人口を増やし「農耕地」を自然環境から区切って作り、余剰食料で生活できるようになった人々は「都市」で生活するようになっていった。

農耕地と森林での境界では、森林を農業や人間生活に利用しやすいように「里山」として改変した。自然環境—里山—農耕地—都市の間には最初は調和関係があり、人々